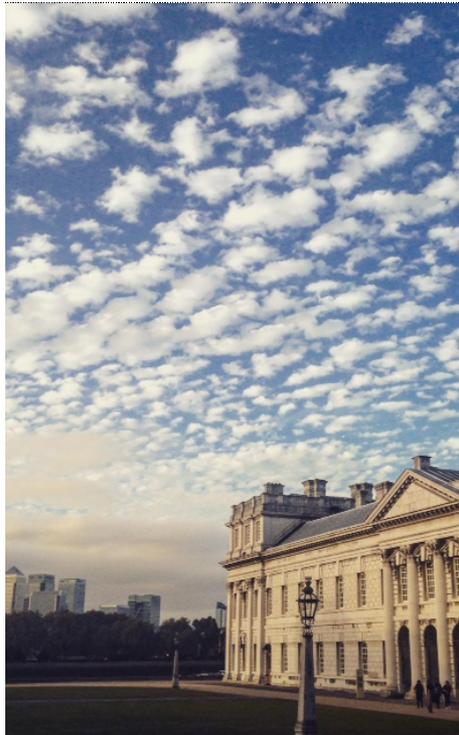


Hello!! from the UK!!～Chiko's column～



通い始めた大学

みなさん、こんにちは！いかがお過ごしですか？発行が大変遅くなってしまい、大変申し訳ございませんでした。今月も突っ走っていきますので、どうぞよろしくお願い致します。さて、言い訳になってしまうのですが（汗）今月は怒涛のように過ぎて行きました。というのも、先月号でIELTSについてお話させて頂いたのですが、そのIELTSを急に受けなくてはいけなくなってしまう理由は、なんと私大学院に入学することになったからなのです。これには、長い長いストーリーがあるので、少しお話したいと思います。まず、私は、今回日本語を教える技術や知識、さらに資格（世界で使える）を身に付けたいと思い、イギリスでDiplomaをとることにし、渡英したわけですが、実はその先の目標として、どこかに大学院を出て教育のMA（修士課程）をとりたいて考えていました、今回計画していたDiplomaは、MAに進むための最低条件となることから、MAに進むかどうかは別として、とにかくDiplomaを取りに行こうと思っていました。6月にこちらに来て、みなさんご存知のように、イギリスがEUからの脱退を決め、歴史的瞬間に居合わせた私ですが、特に自分自身には、為替の変化で少しレートが良くなる程度の影響だと考えていました。ところが！ところがです。なんと、イギリスがEU離脱のせいで、少しずつイギリスの大学が予算をカットしビジネスとして成り立つ学部のみを残そうまたは作ろうとする動きに拍車がかかり、私が進むかどうか考えようと思っていたMAのコースが、今年で終了、来年からなくなってしまうことになったのです！それは困る！と思い、コースの教授に掛け合いなんとかならないかと掛け合ったところ、試験（英語の試験、大学院入学のためのインタビューと研究計画書）がパスすれば、今年の9月からMA（こちらの大学は基本9月から始まります）に割り込めるかもしれないと提案を頂いたのです。要するに、試験に受かったら9月からDiplomaとMA（Master:修士課程）を一緒にこなすことになるということになったのです。一瞬考えましたが、もうこんなチャンスは二度と来ないと思い、必死でIELTSを勉強し、さらにDiplomaの試験もこなしつつ、大学院の研究計画書を考えるという、もうめっちゃくちゃな日々を迎えることとなったのです。そう、これが私がIELTSを受けなくてはいけなくなった理由なのです。結果は・・・最初にお知らせさせて頂いた通り、IELTSのスコア、研究計画書、インタビューもパスし、無事大学院入学が決まりました！！

と、まだまだこれからが大変なのです。大学院は1年なので、VISAを変えなくてはならず、もうその手続きが大変ったらありやしない！！本当に苦労しました。さらに一回日本に帰ってVISAを更新しなくてはならず、さらにもう大学院はすぐ始まるのでそれまでにまたイギリスに戻ってこなくてはいけないというバタバタの9月でした。そしてついにもう、大学院の授業は始まり、Diplomaの方は中学校での実習が始まり、もうてんやわんやの毎日です。でもせっかく手に入れたチャンスなので（もう多分ラストチャンス）思いっきり頑張りたいと思います！！このコラムはまだまだ続けさせて頂きたいと思っていますので、どうぞこれからもよろしくお願い致します！

と、こんなドタバタ劇の中過ごしているChikoですが、最近大学へ行くバスの中でのエピソードをご紹介します。私の家から、大学まではバスに乗って10分ほどなのですが、朝はラッシュなので20分ほどかかります。その日はバスの1階が混んでいたのので二階に行ったのですが二階も結構混んでいて、後ろの方に座りました、しばらくするとなんだか、大音量で音楽が・・・さらにカラオケ並みに大声でその音楽に合わせて歌う声が聞こえてくるではありませんか！日本にいたら思わず何回も振り返って見返してしまうところでしたが、イギリスでは、特にバスの中で電話で話しはいけないルールはないし、マナーモードにするルールもないので、私は一回振り返ってしまいました（やはり反射的に見てしまいました笑）特に誰も、注意もしないし、気にも留めない様子でした。見ると、歌っているのは金髪黒縁メガネのちょっと思春期の匂いがする男の子でした。歌っているのは、まあイギリスで今流行りのシンガー（Ed Sheeranと言います）の曲なのですが、思春期でちょっとやんちゃな顔をしながらとても切ない歌詞の曲を熱唱していました。ラッシュだし、バスは遅れているし、もっとみんなイライラするところだと思うのですが、周りを見ると、誰もイライラしていないし、私の隣のサラリーマンなんて、その金髪少年の曲を聴きながら、足でリズムをとっていました（笑）。そんな情景を感じて、なんだかフツと力が抜け、私も心の中で歌っちゃったりなんかしてしまいました（笑）。そんなこんなしていると、今度はその金髪男の子の前に座っている黒人の男の人の携帯が鳴り（これまた大音量で、しかもレゲエの呼び出し音でした）、黒人の男の人が電話の相手と話し出したわけですが、もちろん、カラオケは続いていくのかと思ったその瞬間、その金髪男の子がピタリとカラオケをやめたではありませんか！もうびっくり！あれ？偶然かなと思ったのですが、その黒人男性が電話を切り終わった途端、また男の子は歌い出したのです（笑）そして、その黒人男性は電話を切った後、男の子の方に振り返り軽く手を挙げ「サンキュー」みたいな仕草をしました。こんなこと、日本でありえますか？！！良い、悪いは別として、小さいことなのですが、あまりに予想もしない展開に「なるほど」と頷いてしまいました。要するに、自分が考えている「普通」というのは、自分の世界だけ、さらには自分だけのものなんだなとこの朝の小さい出来事の中で感じてしまいました。こちらにいとよく、「えー！そんなことしないでしょ、普通」とか「日本人だったら絶対はそんなことしないでしょ」とかついつい、思ってしまうことがあるのですが、よくよく考えてみると、その「普通」ってなに？とただただ漠然と考えてしまいました。ただ単に小さなある朝の一場面に過ぎないのですが、ふとそんなことを感じ、もう一度自分の価値観、自分の軸はなにできているんだろう。そんなことを考えるきっかけになったように感じます。皆さんは、最近、何か今まで「普通だ」と思っていたことに疑問を持ったりしましたか？そんなことをフツと行きバスのバスの中で考えたChikoでした！では、今月も頑張っていきたいと思います！！

Chiko

もうクリスマス？
デコレーションのロンドン

今の自分にできることで、
自分の価値を判断しちゃいかん。
五年後の自分の可能性を高めるなよ。

『スタートライン』喜多川泰著
Be the change you wish to see in
other people. Live as if you were
die tomorrow. Learn as if you were
to live forever.
やる気が燃え上る傑作!! この秋
おススメです。小林

元気が出る!! 今月のおすすめの一冊。

みなさんこんにちは、読書の秋の到来ですね! 今月のオススメの1冊は、生徒さんのK村さんにオススメいただいた、さだまさし著『風に立つライオン』です。あの...さだまさし? そう、あの『関白宣言』のさだまさしさんの小説です。(ちょっと古かったですか?) この小説、本当に泣けてしまって上を向けないほどの感動です!! この小説はもともと、さださんの歌だったのですが、その歌のメッセージに感動した人たちが自らの生き方に強く影響を受けて、多数の優秀な医師となっていったという、強い影響力のある歌でした。ちょっとやそつとの人数ではなく、しかも極めて優秀、かつ志の高い医師を、一つの曲が導いてしまうって、どんだけスゴイのって思いますよね!!! ですので、お子様を医師にさせたいご両親はそ〜と家でこのCDをかけておくと、医師になる確率が高まるかもしれませんよ(笑)

話は逸れましたが、そんな中2008年5月、さださん原作の映画に多数出演している大沢たかおさんが、「(この曲を)是非とも小説化してください。そしたら僕が主演で映画にします」と、熱い想いをさださんにぶつけます。その熱い想いに応えるべく、さださんはこの曲の小説化をスタートさせたのです。

この物語を読んでいくといちいち感動してしまうわけですが、概要は長崎大学熱帯医学研究所(以下、熱研)の外科医、島田航一郎とその周りの人たちの関わり合いを描いた物語です。「オッケー、大丈夫」が口癖で、できる見通しが立っていないのに引き受けてしまうため周りの人たちからは「ミスター安請け合い」と呼ばれる航一郎なのですが、患者には誠実で、心が純粋で人種差別や国境には無縁、その情熱に化学反応を起こしたみたいに周囲の人たちがその熱に引き込まれていきます。ケニアのナクルに作られた長崎大学熱研の研究拠点に赴任した航一郎は、赤十字病院からの要請で南スーダンとの国境に近いロキチキオという町にある、赤十字のロピディン戦傷外科病院へ赴きます。隣接する内戦



1987年に発表されて以来今なお多くの人々の心に深く刻まれ、愛され続けている名曲「風に立つライオン」。佐渡裕氏が指揮するオーケストラが演奏する雄大な音楽と、さだまさしの語りかけるような優しい歌声が調和。Youtubeで見れますよ



2015年3月14日公開。三池崇史監督作品。主演大沢たかお、石原さとみ、真木よう子他出演。

中の南スーダンからは毎日多くの怪我が運ばれてきます。地雷による怪我や射創の患者がほとんど。紛争地帯では、少年達は実験動物のように、兵士たちの前を一行になって地雷原を歩かされる。子供達を地雷のスイーパーとして使うのは特別なことではないからです。年間5,000件、1日多い時には20件の手術の日々。こうして外科医は来る日も来る日も誰かの身体を切断するのが仕事ようになってくるのです。通常の医師の神経では、3日目に頭がおかしくなるような感じがして、1週間も続けていると胸の中になんの衝撃も感じないようにしていく。でも航一郎だけは違っていた。人としての愛情の深さがかえって自分の心を傷つけ続けるのです。航一郎は現地スタッフに聞きます。「どうしてこうも少年達が沢山撃たれるの?」。現地スタッフ:「彼ら少年兵は麻薬を打たれて、いいなりにさせられる。揉め事の原因なんてわかってないのに、いきなり銃を持たされて、ホラあいつが敵だって言われてバング・バングだ。ストレスは溜まるし、命は縮む。彼らはもう、一体なんのために戦うのか分からなくなってしまっているんだ。撃たなければ撃たれる。理由なんてそれだけなんだ」。そんな日々の中で航一郎は射創で運ばれてきた12歳の少年と運命的に出会います。運ばれてきた少年達がみな地雷によってどちらかの片足を失うほどの大怪我の中、この少年だけは射創による怪我。現地スタッフを交え彼の怪我が軽度で歩行できるようになる可能性について話をしていたところ、いきなり少年は航一郎に飛びかかり腕に噛み付くのです。でも噛み付かれた本人、航一郎だけは少しも驚くことなく、噛み付かれたまま、その少年を抱きかかえ柔かく押さえつけ「ダイジョブ、ダイジョブ」と呼びかけるのです。航一郎は、これほどの傷を負っているがまだ闘争心を失わない憎しみの底の深さをわかって、その痛みも一緒に抱きかかえていたのでしょう。当時の病院で働く人には少しも暇なんてありませんでしたが、そんな中でも航一郎

は彼に優しく話しかけました。彼の名前はンドゥング。最初は話しかけても、いつも相手の心を決して信じないというような冷たい目で睨みつけるばかり。航一郎はそれでも諦めず語りかけます。ついにンドゥングが言葉を発します。それは「シャラップ」と「ゲラウト」でした。それを聞いた航一郎は「あいつ喋った喋った。あいつよ、ちゃんとしたこの子どもだったんだな。なんか、そういうきちんとした仕事をしてた家の子どもじゃねえかなって。こっからだよ、こっから」そんな風に言うのでした。そしてついにンドゥングが航一郎に心を開き、他の子ども達と同じように一緒に遊んだり食事をしたり、絵を描いたりするようになるのです。ある日何を思ったのかンドゥングは、手術という酷い現場を手術室の片隅に立って、息を殺して食い入るように見ることが1週間ものあいだ続きました。そして職員がいる休憩室にきて、航一郎に言うのです。「僕はお医者になれますか?」もちろんなれるよと言う航一郎に対し、ンドゥングの顔色が急に変ります。「いい加減な慰めを言わないで! 僕は9人の命を奪った! 僕は銃で9人を撃ち殺した。人殺しだ!」ンドゥングは涙声でそう叫ぶのです。泣きじゃくりながらも、思い詰めたようにもう一度念を押すように「こんな人間でも...、僕は...本当に医者になれますか?」そこにいたスタッフの誰も、何も言えず、悲しみに打たれる中、航一郎は1人だけ泣きもせず、吹きこぼれるような優しい笑顔でンドゥングに語るのです。「お前は9人を死なせた、それなら...」「...それなら、これからお前の一生を懸けて10人の命を救わなくてはならない」涙で頬を濡らし、驚いたような、嬉しそうな顔をしたンドゥングに向かって、航一郎は続けます。「分かるだろ? いいかい。未来はそういうためにあるんだよ」と。小学生だった航一郎がシュバイツァー博士に憧れ、彼から受け取ったバトンが航一郎をアフリカまで呼び寄せ、さらに航一郎がそこで出会った狙撃兵の少年に、その大切なバトンが渡ってゆくのです。人という生き物は、こうして静かに「志」というバトンを受け継いでゆくのかもかもしれません。続きは原作で♪ まとめ:小林義和



↑航一郎とンドゥング
その後のンドゥングはどうなったのかも気になりますよね。なんと、2011年3月11日の東日本大震災で、彼は航一郎への恩を返すべく来日。ンドゥングが今度は震災のショックで言葉を失った子どもの心を開くのです!!!!

However と But

先日は接続詞のお話でしたが、今日は接続副詞のお話です。接続詞とは少し使い方が違い、文と文の関連性を明確にするものですが、あくまでも副詞です。中には改まった表現になるので日常会話には使われない物もありますが、当校で使っているHot topicsにも出て来たりしますので、知っているのとちょっとした文章を書いたりするのに便利です。よく出てくる物に however がありますが、but が接続詞の「しかし」に対して however は接続副詞ですので、文と文を接続するものではないのです。ですので多少使うルールが違います。上司などに仕事後飲みを誘われたりした時、

I wanted to go home, but I couldn't refuse.

この"but"を"however"に変えてみましょう。

その1 SV~(ピリオド) 接続副詞, SV ...

I wanted to go home. However, I couldn't refuse.

その2 SV~;(セミコロン) 接続副詞, SV ...

I wanted to go home; however, I couldn't refuse.

but は文頭で使ってはいけないみたいですが、however は文頭、文中、文末でもコンマ(,)で分ければ使えます。

However, I couldn't refuse.

I, however, couldn't refuse.

I couldn't refuse, however.

今度は **therefore**(ゆえに、なので)を使ってみましょう。

上司は面倒でもこの仕事が好きなら、

I love my job; therefore, I'm happy with this company.

SV~, 接続詞+接続副詞, SV ...

I love my job, and therefore, I'm happy with this company.

良く使われる接続副詞を一覧表にしました。

Addition (追加) also, furthermore, moreover, besides

Contrast (対比) however, still, nevertheless, nonetheless, instead, otherwise

Comparison (比較) similarly, likewise, conversely,

Result/Summary (結果/概要) therefore, thus, consequently, accordingly, hence, then

Time (時間) next, then, meanwhile, finally, subsequently

Emphasis (強調) indeed, certainly